



## 工学分館と言語研究

情報科学研究科

長野 明子



工学分館のみなさま、この度は設立40周年、おめでとうございます。

私は情報科学研究科の人間社会情報科学専攻の所属し、言語学や英語の教育・研究に従事しています。タイトルの「工学分館と言語研究」の中の「と」は、等位接続詞の「と」—英語で言うと and—であるだけでなく、後置詞の「と」—英語で言うと with—でもあります。日々の研究活動において、工学分館の存在は欠かせないものですので、「工学分館と共に言語研究を行っている」—doing linguistics with the Engineering Library—という気持ちだからです。

英語や日本語のように長い歴史をもつ言語にはたくさんの単語や固有の表現があり、それらについて分析を行うには手元にある辞書類だけでは不十分ということが往々にしてあります。また、言語表現についてだけではなく、分析に使う概念についても出典の原文を正確に読み込む必要があります。必要な論文や図書が東北大学附属図書館にあればそれを利用しますが、ない時の方が多く、そういう際はいつも My Library 経由で分館に依頼し、国内外の大学から取り寄せてもらってきました。これまで、どれほどの複写論文や図書貸し出しをお願いしたか、わかりません。図書館員の方々はレファレンスのプロであり、My Library に入れた資料の情報に多少の不備があっても<必ず>こちらが求めているものを見つけてきてくれます。しかも、最短の期間です。お願いする資料の中には、相当マニアックなものも含まれるのですが、そういうものでも、すばやく正確に対応してくれます。同時に、こちらの都合に合わせて、資料取り寄せの時期を少し遅らせるなど、臨機応変に対応することもやって下さいます。今となっては、研究上欠かせない場所になりました。

工学分館には、文系研究者にとってもう1つ得難い魅力があります。それは、所蔵されている書籍自体です。そこに並んでいる工学系、機械系の単語や言語表現の数々は、出身大学の英文学科図書館で馴染んできたものとはかけ離れています。こんなことを考え、研究している人たちもいるのか!と、ここに来るたびに、世界は広いことを実感できるのです。

